

児童生徒の「主体的な学び」を促す授業実践

1 基本情報

- ◇各教科等 自立活動
- ◇学部・学年 小学部 第2・3学年1組
- ◇単元名 「環境の把握(数)・身体の動き(ハサミ, のり, 両面テープ)・コミュニケーション(言葉)」
- ◇単元の目標 児童の病気や障害状況に応じて, 教師の支援を受けながら, 日常生活動作, コミュニケーション, 情緒の安定に係る基礎的な力を身に付けることができる。
- ◇付けたい力 自分からすすんで学習していく力。集中して物事に取組む力。
- ◇本時の目標
 - ・説明文を読んで内容を理解し, 活動に取り組むことができる。
 - ・絵本を選び, 文字に気を付けて間違えずに読むことができる。
- ◇生徒の実態 いくつかの内容から学習したい内容を選んで学習することができるが, 説明を聞かずに自分が思ったように取組んでしまうことがある。

2 期待する児童生徒の姿

指導者の話をよく聞き, 焦ることなく学習に取り組むことができる。やりたいことだけでなく, 苦手なことにもチャレンジすることができる。

3 指導者が捉えた児童生徒の「主体的な学び」

今回の授業で, ひらがな書き(点線などに沿ってなぞり書きをすること)を行っていったが, 書いた文字のつく言葉を調べていくにあたって, まずは自分の知っている言葉を言ったり, 「ことばえてん」を積極的に見て, 説明文を読んだり, 指導者に読んでほしいと頼んだり, 自分から学びたい気持ちがよく表れていた。また時間の制約があったが, 次のひらがなも書きたいと言うなど, やりたい気持ちも表現していた。指導者が提示する内容の中で, 児童がやりたい内容を選んで行っていく活動だったので, 自分からやりたい活動になったと思う。

選ぶという仕組みではなく, 指導者が決めた(やらせたい)内容についても, 如何に提示から興味を持たせるのか, やらせたい意図を児童に伝え, 苦手なことにもチャレンジさせるということも必要と感じる。はじめは鉛筆の持ち方を指導すると, 言われるのが嫌で書くことまでも嫌がっていたのが, 今では「持ち方に気を付けて」と伝えることも受け入れ取り組むことができているので, 苦手なことができるようになることで, 主体的な学びにもつながっていくのではと思う。